

市民談話室



投稿をお待ちしています。この「市民談話室」は、市民の皆さんの意見交換の場です。テーマは自由です。あなたがふだん思っていることを書きながら気軽に寄ってください。紙面の都合上、文を短くすることがあります。あて先は、〒九五〇一〇二 白根市大字白根二二三五 白根市役所企画財政課広報広聴係です。

市民文芸

俳句

孫に手をひかれて来たり夏の海
大旗 豊治

友と来て芋焼酎飲み話す
玉木 長吉

土用干しや母の遺品の衣ありて
小林キミイ

川柳

うまいもの食べて独身謳歌する
今井 タエ

裏長屋義理人情が厚く咲き
野内憲太郎

うす味もおふくろの味苦にならず
田中 成子

禁煙ときめた日の味旨さ増し
大井 義雄

うすれてる記憶の糸を辿る孤児
後藤マサノ

運命は種馬と言う名馬去る
佐藤トミノ



祭りは貴重なコミュニティーづくりの場 (新飯田祭りから)

古川神明宮 参拝に来て「コミュニティーづくり」を

長井二男さん (古川・農業・62歳)

私の子供のころは、年二回の古川神社のお祭りがなんととても一番待ち遠しい行事でした。家に帰るとすぐに祭りごづかいをもらい、コンニャクの煮つけを食べるのを何よりも楽しみにしていました。

このお宮は村社だったので、秋祭りになると白井小学校から一里の砂利道を全校生徒でお参りに来たりしてにぎやかだったのですが、年々、お祭りに参拝する人も少なくなり、ちょっとさみしい思いをしていました。

しかし、最近では神社の周りにたくさんの方が建ち、毎年正月やお祭りに参拝する人が増えているようです。特に秋祭りの宵宮の終わった後、お供え物のお下りでみんなと火鉢を囲んで飲む酒は格別ですし、お祭りに子供会のみこしが出てにぎわい、大変うれしく思っています。

どうか地域の皆さん、参拝に来て語り合いませんか、そして、道で会ったら自然にあいさつのできる地域をつくっていきましょう。

この感動を多くの人に伝えたい

関根広利さん (大通一丁目・会社員・31歳)

今年も六月一日から五日までの五日間にわたって、白根大風合戦が開催されました。私はいつもこの時期になると、気持ちの高ぶりを感ぜさせられます。小さいころ父に連れられ、初めて大風合戦を見たときの感動は、今でも不思議なくらい心の中に焼き付いています。毎年行われる大風合戦がたとえ同じものであっても、見ている人たちの目には、野球の試合と同じように期待感とその先の展開を予測できないドラマチックなものが映り、引き込まれてしまいます。

残念なことに、全国的、世界的にも有名になった白根大風合戦を、意外と会社内(新潟)でも一度も見たことのない人が、数多くいるのはびっくりしてしまいました。風合戦のころになるとそういう人たちに声をかけては、いっしょに見に行ったりします。

わが家の子供にも毎年一度は見せてやりますが、いつも見に行くたびに、大空に舞い上がるすばらしい本と巡り合えて教師として身の引き締まる思い

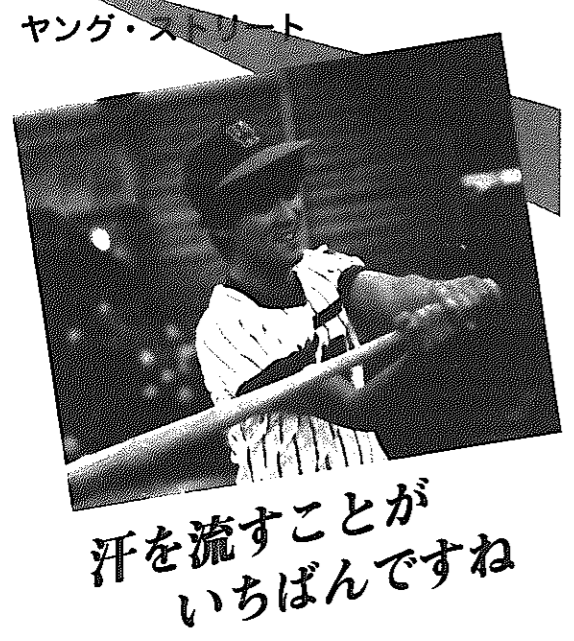
須佐平助さん (みの口・白根高校校長・59歳)

白根緑ヶ丘病院院長 佐野孝先生の「折りにふれ心に刻む」を紹介いたします。

はしがきに、テーマの一貫性に欠けると書かれています。それがかえって先生の視点の多様さ、考え方の柔軟さを感じさせ、親しみを覚えます。職業、性別、年齢の違いを超えて読者は必ずどこかでなるほどと共鳴

白根緑ヶ丘病院院長 佐野孝先生の新刊「折りにふれ心に刻む」を紹介いたします。

はしがきに、テーマの一貫性に欠けると書かれています。それがかえって先生の視点の多様さ、考え方の柔軟さを感じさせ、親しみを覚えます。職業、性別、年齢の違いを超えて読者は必ずどこかでなるほどと共鳴



汗を流すことがいちばんですね



長沢健康さん (戸石新田・25歳・会社員)

体を動かして汗を流すことが大好きです。野球、スキー、そして風合戦、一年中動き回っています。特に風合戦は会社ぐるみで取り組んでいるし、また自分がその代表になっている(優勝するまで辞めさせてもらえない)こともあって、一生懸命やっています。

白根市は、他の市と比べてみると、野球場、テニスコート、図書館、市民会館、どれをとっても他市より遅れているように感じています。スポーツ・文化活動を高めるためにも早くすばらしい施設を造って、コンサートや、スポーツの大きな大会を白根市で開催できるようにしてほしいですね。

結婚はまだまだ、周りの友達にも結婚していないのがたくさんいるし、そうした環境が悪いんでしょうか?

短歌

畑土の渴きつづきにて雨乞いど
月は光りて中天にあり
織田 護

あじさいは幾群づつがあでやかに
彩を競いて今盛りなり
中村 京

憂いある夫を送った日の不安
織田 セツ

顔いだけで一生添う運命
竹石 甚五

威勢よい声に魚も生きて売れ
田村 恒夫

賽銭を数えて神も上機嫌
今井 七郎

血に染まるまでは建てない信号機
高橋祐四雄

エリートの系図に叛く落ちこぼれ
吉川 彰

脇役の妻は種火を消さずいる
山岡 フミ

脇役の哀しみ丸い背にかくす
西条 ムラ

上機嫌おだてにうまく乗せられる
吉川 末吉

割勘でいやしく呑んだ二日酔い
岡村 清

びっくり箱開けて見たがる好奇心
本間 吾朗

瞳の鱗一枚剥いでやる助言
長井 徳市